＝特別連載＝

科学技術振興機構『さくらサイエンスプログラム』友情と感激

第372回

福岡アジア都市研究所の報告

松熊 功
（福岡アジア都市研究所
常務理事・事務局長）

福岡発、持続可能な都市成長を支える人材の育成

公益財団法人「福岡アジア都市研究所」は、科学技術振興機構（ＪＳＴ）さくらサイエンスプログラムの支援により、今年７月３日～９日の日程でベトナム国家ハノイ校日越大学より日本語や日本地域文化を学ぶ学部生、大学院生を中心とした９名を受け入れ、「持続可能な都市成長を支える人材の育成」に関連した研修を実施しました。

当研究所は福岡市の外郭団体として、福岡市の取り組みをアジア諸国に広く紹介し、自国の発展に貢献してもらう「国際視察・研修」の窓口業務に長く携わってきました。その経験を踏まえ、都市の成長に強く影響する「経済」「環境」「福祉」という研修ニーズの高い分野をテーマに、当研究所をはじめ、福岡市関係部署の担当職員、福岡市に立地する大学（西南学院大学、中村学園大学、福岡女子大学）の先生方からの講義や、日本人学生や国際学生とのワークショップを通して、参加者が最新かつ包括的な専門知識やスキルを習得できるようなプログラムを作成しました。

訪日前は、オンライン会議を実施し、参加者を３チームに分け、それぞれ、経済、環境、福祉分野で、問題解決のためのテーマを設定してもらいました。福岡市滞在中には、毎日の講義や日本学生とのワークショップを通して学んだことを反映して、問題解決の糸口を見つけてもらい、プログラム最終日には、参加者によるプレゼンテーションを日本語で行いました。

３チームがそれぞれ「ベトナムと日本の経済協力」「ハノイ市のごみ処理問題」「福祉・高齢化」と題したプレゼンを行い、ハノイと福岡の制度や文化の比較や、問題点などを提示しました。この発表会には、当研究所の職員、研究者だけでなく、ベトナム国家ハノイ校日越大学の職員もオンラインを通して参加し、質疑応答を通して、参加者により深く問題を理解してもらうとともに派遣元にプログラムの成果を実感してもらいました。

初日には、当研究所の研究員から「福岡市のアジア交流拠点都市づくり（都市政策）」についてレ

プログラムスケジュール	
1日目	到着、オリエンテーション
2日目	講義1 アジア交流拠点都市づくり 各自テーマ発表
3日目	視察1 福岡市の再生水事業 講義2+ワークショップ（日越環境問題）
4日目	講義3 高齢化問題と福祉政策 講義4+ワークショップ（福祉問題） 視察2
5日目	講義5 中小企業のベトナム進出について 視察3 創業支援施設
6日目	講義6 都市評価とウェルビーイング 成果発表、意見交換会、修了式
7日目	帰国

再処理施設の視察

西南学院大でのワークショップ

クチャーを受けたのち、参加者が準備してきた各自の研修テーマを発表し、問題意識と学ぶ視点・方法、さらにこの研修プログラムが目指すゴールの共有を図りました。

２日目は、福岡市の「水問題」対策（再生水事業）の現状と課題について市職員から説明を受けながら現場を視察し、その後「福岡とベトナムの環境問題」について福岡女子大学環境科学科の先生の指導の下、地元大学生との意見交換を行いました。

３日目は、福岡市職員から高齢化問題と福祉政策の現状と課題に関する講義を受けてから、西南学院大学社会福祉学科の先生による指導の下、ゼミの日本人学生と「福岡とベトナムの福祉問題」と題したワークショップに参加し、活発に議論を交わしました。

４日目は、福岡市職員による「福岡市の海外人材起業支援政策と展望」のレクチャーと福岡市の官民共働型スタートアップ支援施設の視察を行いました。また、中村学園大学キャリア開発学科の先生から「福岡の中小企業のベトナム進出」についての講義を受け、日越間の経済交流や企業進出の現状と課題について学習しました。

５日目は、福岡アジア都市研究所の研究員より「ウェルビーイングを目指す福岡市の新たな成長戦略」が紹介されたあと、研修成果の報告会が開催されました。参加者が問題意識の整理をはじめ、テーマの絞り込みや議論展開のロジック等について、研究所の担当者から温かくも厳しい講評を受け、福岡で学んだことを振り返りながら、今後のキャリア形成や研究生活に活かす手がかりをつかめるよう、サポートをしました。

修了式に臨むベトナム国家ハノイ校日越大学の学生ら

アジアのリーダー都市をめざす福岡市では、長年にわたりアジアから多くの留学生を受け入れてきました。また、福岡市と当研究所は、国際視察研修プログラムを通して、都市づくりの経験ノウハウを積極的に対外発信してきました。さらに、国際的創業・就業の国家戦略特区と認定されてから、福岡市はグローバル人材の育成と活躍の場づくりにいっそう積極的に取り組み、国際貢献を通じたビジネス展開を政策目標に掲げています。

今回の研修を通して、ベトナムの優秀な学生たちが日本の大学の進んだ研究や教育を学び、住みよい都市づくりの現場を視察するだけでなく、日本人学生や国際学生とのワークショップ等の交流により、日本社会への理解を深め、日本留学のモチベーションの向上や、日本企業への就職など日越経済文化交流の架け橋となることも期待されます。

我々も、ベトナムの将来を担う優秀な学生を積極的に受け入れ、教育や交流に向けた関係構築を目指すことによって、ベトナムをはじめ、アセアンそして世界に貢献し続けることを願っています。最後に、このような貴重な機会を与えてくださったＪＳＴに改めて感謝の意を表します。

◎プログラム参加者の感想

高温多湿の中、バスや地下鉄を駆使して、市内の大学や施設を訪問する密なスケジュールに加え、最終日のプレゼンテーションの準備もあり、学生にはとてもハードな一週間になったと思います。「発表のため、宿泊施設で夜遅くまでチームで議論しとても疲れた」との声の一方で、「乗り越えることで自己成長し、自信をつけることができた」との声もあり、決まったプログラムに受動的に参加するだけでなく、自分たちで考え、学ぶ経験は大きな成果だったのではないでしょうか。

また、ある参加者に「一番楽しかったのは？」と質問したところ、「日本の学生たちとのディスカッション」という回答がありました。文化の違いを超えて、共に意見を交わす経験はやはり心に残るもので、今後のプログラムにも是非、加えていきたいと思います。

ご協力いただいた大学の先生によると、留学生が多く学んでいるにもかかわらず、カリキュラムが違うため、日本の学生とひとつのテーマでディスカッションする機会はあまりない、とのことでした。当研究所としても、福岡市の大学生にアジアからの学生と触れ合う機会を提供できたことは、大きな成果だと思います。